



もう、作りものなんて
言わせない。

プログラム・抄録集



第4回
日本耳介再建学会
2021.11.26fri-27sat

会場

札幌医科大学医学部

会長

札幌医科大学医学部
形成外科学講座 教授

四ッ柳 高敏

第4回 日本耳介再建学会 開催報告

目 次

- 1、 学会日程表
 - 2、 症例検討会プログラム
 - 3、 参加者名簿
 - 4、 Photo コーナー（学会の様子）
 - 5、 参加者の感想
 - 6、 主催者から
-

1、学会日程表

第1日目 11月26日（金曜日）

13:00～17:00	ライブサージャリー 「小耳症耳介挙上術 および 対側の立ち耳 同時手術」 場所:記念ホール2階 大ホール ⇄ 附属病院手術室 会場モデレーター :札幌医科大学形成外科 濱本 有祐 手術室モデレーター:仙台医療センター形成外科 鳥谷部 荘八 執刀医:四ッ柳 高敏
17:00～17:30	意見交換会 場所:記念ホール2階 大ホール 司会:札幌医科大学形成外科 四ッ柳 高敏

第2日目 11月27日（土曜日）

9:00～12:00	症例検討会 場所:記念ホール2階 大ホール ※症例検討会の休憩時間に、集合写真を撮影
12:15～13:15	ランチョンセミナー 「小耳症の術後管理」 場所:記念ホール2階 大ホール 演者:札幌医科大学形成外科 四ッ柳 高敏
13:30～15:30	ハンズオンセミナー（※希望者のみ） 「人参を用いた小耳症肋軟骨フレームカービング」 場所:記念ホール1階 会議室A

2、症例検討会プログラム

開会の挨拶

札幌医科大学形成外科 教授 四ッ柳 高敏

演題第1部

座長 佐々木 薫 (筑波大学医学医療系形成外科)

1. 80歳女性、耳垂部メルケル細胞癌の治療経験

○蔡 顯真¹, 野村 麻衣², 元村 尚嗣² (南大阪病院 形成外科¹, 大阪市立大学大学院医学研究科 形成外科²)

2. 耳介を含む先天性巨大色素性母斑の治療経験

○玉田 一敬 (東京都立小児総合医療センター形成外科)

3. Low hair line と外耳道低位を伴う左無耳症の1例

○高清水 一慶, 杠 俊介 (信州大学医学部 形成再建外科学教室)

4. 耳垂欠損を伴う耳甲介型小耳症に対する手術術式について

○笠井 昭吾 (琉球大学病院 形成外科)

5. 耳介挙上術後に全層植皮壊死をきたした1例

○三浦 孝行, 鳥谷部 荘八, 下寺 佐栄子, 石原 有佳子, 前山 俊史 (仙台医療センター形成外科)

6. アトピー性皮膚炎の既往のある小耳症患者に軟骨移植術術後生じた多発水疱

○加持 秀明 (静岡県立こども病院 形成外科)

写真撮影(約10分)

休憩(約10分)

7. 著明な軟骨吸収を来した片側小耳症患者に対する再手術の相談

○妹尾 貴矢, 木股 敬裕 (岡山大学病院 形成外科)

8. 当科での耳介形成術に対する問題点の検討

○戸澤 麻美, 森 秀樹, 眞田 紗代子, 中岡 啓喜 (愛媛大学附属病院形成外科)

9. 再建耳介に小潰瘍が繰り返し発生した小耳症の1例

○鳥谷部 莊八¹, 三浦 孝行¹, 下寺 佐栄子¹, 石原 有佳子¹, 前山 俊史² (仙台医療センター形成外科¹, 宮城県立がんセンター形成外科²)

10. 著明な肋軟骨石灰化を認めた成人小耳症の耳介形成術の1例

○佐々木 薫, 関堂 充 (筑波大学医学医療系形成外科)

11. 真珠腫による術後感染を認めた耳甲介型小耳症の1例

○濱本 有祐, 四ッ柳 高敏, 上遠野 なほ, 天王地 敏雅, 宮林 亜沙子, 大沼 眞廣, 北田 文華, 北 愛里紗, 加藤 慎二, 山下 建 (札幌医科大学形成外科)

3、参加者名簿

全国よりお越しいただいた先生方 20名
札幌医科大学事務局(医師、事務) 12名

氏名 *50音順 敬称略	所属
生島 健太	徳島大学
石田 創士	徳島大学
井上 研	大江橋クリニック
牛尾 茂子	四谷メディカルキューブ 手の外科
親泊 咲江	東京都立小児総合医療センター
笠井 昭吾	琉球大学
加持 秀明	静岡県立こども病院
川上 善久	福岡市立こども病院
楠目 信三	近森リハビリテーション病院
蔡 顯真	南大阪病院
櫻庭 実	岩手医科大学
佐々木 薫	筑波大学
佐藤 大晟	東京大学
妹尾 貴矢	岡山大学
高清水 一慶	信州大学
玉田 一敬	東京都立小児総合医療センター
戸澤 麻美	愛媛大学
鳥谷部 荘八	国立病院機構 仙台医療センター
三浦 孝行	平鹿総合病院
山崎 裕行	徳島大学

四ッ柳 高敏	札幌医科大学(事務局)
山下 建	札幌医科大学(事務局)
濱本 有祐	札幌医科大学(事務局)
加藤 慎二	札幌医科大学(事務局)
権田 綾子	札幌医科大学(事務局)
北田 文華	札幌医科大学(事務局)
北 愛里紗	札幌医科大学(事務局)
大沼 眞廣	札幌医科大学(事務局)
天王地 敏正	札幌医科大学(事務局)
上遠野 なほ	札幌医科大学(事務局)
事務 2 名	札幌医科大学(事務局)



4、Photo コーナー（学会の様子）

■1日目：ライブサージャリー

「小耳症 耳介挙上術 および 対側の立ち耳 同時手術」

手術室と会場を「ライブカメラの映像」と「音声」でつないだライブサージャリー。

会場内の大画面スクリーンと4台のモニターから映像が配信され、映像を見ながら執刀医とのディスカッションが行えます。

また、会場内での新しい取り組みとして、ご自身のノートパソコンやタブレットを用い、オンラインにてライブサージャリーをご覧いただけるようにしました。これにより、新型コロナウイルス感染対策は勿論のこと、お手元でより身近に映像をご覧いただけるようになりました。

第1回目～第3回目までは軟骨移植術でしたが、前回の意見交換会にてご希望をいただいた耳介挙上術を今回は行いました。執刀医から「手術手順」のレジュメが配布され、活発な質疑応答がなされました。手術室モデレーターの鳥谷部先生ありがとうございました。



執刀医との質疑応答の様子

■1日目：意見交換会

第3回目までは「日本耳介再建研究会」でしたが、形成外科学会への申請が通り、今回の4回目より「学会」となりました。それに伴って出席点も付加されるようになりました。

耳介の治療に本気で取り組んでいる人、取り組もうとしている人による相談会、勉強会の意味合いを維持すること、日本の耳介再建レベルの底上げをしていくことといった本学会の趣旨やシステムの説明、今後の学会の内容や構成への希望はアンケートでお伺いする旨、話がなされました。いただいたご意見・ご希望を第5回につなげ、より有意義な学会にしたいと思っています。

なお、第5回目の開催は2022年11月4日(金)、5日(土)に決定しました。皆様のご参加をお待ちしております。



会長 四ッ柳による説明

■2日目：意見交換会

耳の治療に熱意を持った先生方が、本音でディスカッションする症例検討会。
症例検討会は日本耳介再建学会の目玉の一つです。

通常の学会では成功症例の発表が多い中、本学会では相談症例の発表が数多く行われています。手術アプローチをどうしたら良いか、他に可能な術式はあるか、術後に同様の症状の経験はあるか等の内容で、納得いくまで質問・議論をしていくという方法で会は進んでいきます。回を重ねるごとに積極的な意見交換がなされ、学会の趣旨を体現した有意義な症例検討会となっています。座長の加持先生、佐々木先生ありがとうございました。



似たような症例経験をスライドにて説明



活発にディスカッションされています

■2日目：症例検討会中のオフショット



スターバックスコーヒーと北海道銘菓でひと息



集合写真の準備中

■2日目：ランチョンセミナー

作った耳の審美性を左右する術後管理。それゆえその対策に先生方も悩むところです。手術直後のドレッシングから毎日の処置方法、ご家族への処置のレクチャーに至るまで、会長の四ッ柳が現在行っている小耳症の術後管理の要点についてお話ししました。



■2日目：ハンズオンセミナー「人参を用いた小耳症軟骨フレームカービング」

肋軟骨に近い感触を持つ人参と彫刻刀を使用し、肋軟骨フレームを作成します。
フレームが出来上がったあとは陰圧をかけて、よりリアルに耳の凹凸の出方を感じていただきます。



5、参加者の感想

1. 愛媛大学医学部附属病院 形成外科 戸澤 麻美先生より

2017年の第1回耳介再建研究会から連続で参加させていただいております。去年はコロナ禍で残念ながら開催がありませんでしたが、今年は10月に開催決定の連絡をいただきました。まだ県や愛媛大学附属病院独自の行動制限などがあり、愛媛大学からは私一人が参加させていただきました。

今回ハンズオン以外は大ホールで行われ、休憩時間にもしっかりと換気されてばっちりコロナ対策が行われていました。初日のライブサージャリーは、どんどん進化しており、自分のパソコンからZOOMで見られるようにもしていただけました。画像は自分の小さいノートパソコンでみるより、準備していただいたモニターの画面がとてもきれいでしたので、主にモニターを見させていただきました。手術の画像がいつも安定して見えやすく、頭がかぶることもないので、どのようにセッティングされているのか気になってたところ、内視鏡カメラの固定法まで見せていただきました。

手術は左の立ち耳手術と右の耳介挙上術をみせていただきました。立ち耳手術は軟骨を糸で矯正した上に、耳介横筋弁を縫合される方法を見せていただきました。立ち耳手術でもボルスターをされていましたし、ボルスターの止め方も当施設とは異なっていたため、大変勉強になりました。耳介挙上は見学に来させていただいたとき以来で、久しぶりに拝見させていただきました。今回改めて見せていただいたことで、あいまいになっていた記憶が明瞭となりました。耳垂の取り扱い、耳甲介の皮膚の深みの出し方など、惜しみなく技を見せていただきました。手術中に会場の質問に丁寧に答えていただき、会場モデレーターの濱本先生との掛け合いを楽しませていただきましたが、手術が止まることなくすすんでいくので毎回感銘をうけています。

2日目は、朝起きてびっくりです。1日目と違って真っ白になっていました。1歩も歩けない！と思ったのでタクシーで会場の真ん前までつけてもらいました。

症例検討会においては、「うまくいった症例を発表するよりも、うまくいかなかった症例や困った症例に対してみんなで意見を出し合う場にしたい。完成したスライドでなくてもいいのです。」という先生のお言葉で少し気が楽になりました。しかし、各施設の先生方は非常にきちんと準備されて深く調べられており、とても勉強になる内容でした。会場の討論の後には必ず四ッ柳先生の御意見も聞けて、困った症例にはすぐに類似の症例写真をみせていただいて補足していただきました。1症例ごとに討論がしっかりされて、たくさんの先生方のご意見を聞くことができましたので大変勉強になりました。

ランチョンセミナーでは術後管理の方法について講義をしていただきました。手術の良い結果を出すのに術後管理も重要です。各施設でいろいろな管理方法があるので、よい方法はどんどん取り入れていきたいと思います。

フレームカービングは毎年参加しておりますが、今回はお手本のビデオもパーツのテンプレートも進化していました。先生があっという間にお手本を削られるので、毎回その速さに驚かされます。

改めて四ッ柳先生のフレームをゆっくり観察できたので、“竜宮城”パーツの削り込み方をもう一度見直すことができました。以前よりさらに削り込まれて立体感がハンパないと思いました。

帰りの飛行機の時間が迫ってゆっくりできず、削ったとたんに帰らなければなりませんでしたが、本当に内容の濃い2日間でした。

毎年感じていることですが、日常診療に追われて忙しい中、これほどまでに大変な準備をしていただき、四ッ柳先生をはじめ、札幌医科大学の医局員の皆様、秘書の菊地様にこの場を借りて感謝申し上げます。本当にありがとうございます。こんなに至れり尽くせりの学会はないと思います。

今回はコロナで参加が難しかった施設も多いかと思いますが、来られていた先生方の耳に対する情熱がすごいので、今年もここに参加できたことをうれしく思います。もっと頑張りたいと熱い気持ちで帰りました。来年の開催もしみにしております。



症例検討会にてご発表中の戸澤先生

2. 仙台医療センター形成外科 三浦 孝行先生より

昨年は新型コロナウイルス感染の拡大により学会が中止となりましたが、今年は無事開催されて大変嬉しかったです。この1年以上オンラインでの学会発表、質疑応答ばかりで、楽と言えば楽でしたが、久しぶりの現地開催の学会では直接先生方との意見交換や交流ができ、学会の良さを改めて感じられました。通常の学会運営に加え、感染対策などにも徹底して準備して頂いた札幌医科大学形成外科の皆様に心より感謝申し上げます。

初日のライブサージャリーは耳介挙上術、立ち耳手術でした。耳介挙上術は、昨今のマスク着用に耐える耳介を作る上で十分な聳立、耳介側頭溝の形成が不可欠であり、そこに苦勞されている先生方も多いのではないかと思います。手術には四ッ柳先生の技術とこだわりが随所に散りばめられ、モデレーターの先生方からも余すことなく伝えて頂きました。耳介挙上がメインでしたが、個人的に感銘を受けたのが立ち耳手術の耳介横筋弁でした。後で自分の資料を見直してみた所、こっそり1行書かれていただけでした。非常に良い方法ですので、早速次から耳介横筋弁を取り入れてみたいと思います。

二日目の症例検討会は各施設の困難症例や稀な合併症について白熱したディスカッションとなりました。当院からは2題発表させて頂きました。反省点が含まれる内容でしたが多くの建設的なご意見を頂き、今後の診療の励みとなりました。

ランチョンセミナーでは小耳症の術後管理について四ッ柳先生からご講演を頂きました。肋軟骨移植、耳介挙上術後の処置方法や注意点、合併症とその対策について、豊富な経験の中から重要なポイントが満載でした。四ッ柳法の特徴であるプチ手術も真似していきたいと思います。

ハンズオンセミナーでは恒例の人参による軟骨フレーム作成しました。同じテンプレートを使用しているにもかかわらず、出来上がりは十人十色で各先生方のこだわりが光る作品となっております。私も一昨年よりだいぶ細部の仕上がりが良くなってきたかなと自画自賛しております。手術の時のような重圧がないため、飛行機の時間を忘れてしまうほど没頭してしまいました。

最後に、私は学会前の忙しい時期に無理を言って2日前より手術や外来の見学をさせて頂きました。小耳症の治療は手術だけでなく、患者さん・家族が不安や疑問を持って初めて受診された所から始まり、日常生活の相談や治療の説明、手術の手配、術後のケア、トラブル時の対応などを一人一人丁寧に対応している四ッ柳先生の姿勢が非常に印象的でした。またその四ッ柳先生をサポートする若い先生方が毎日の処置や肋軟骨採取、皮膚採取などを迅速に、連携して行っている姿にチーム四ッ柳が患者さんから選ばれる所以を感じさせられました。学会やライブサージャリーではなかなか伝えられない点ですが、仙台医療センターに持ち帰り今後の診療に活かして参りたいと思います。四ッ柳先生の次の時代が巷では心配されておりますが、日本の耳介再建を担う一角となれるように気持ちを引き締めることができました。また来年もさらにレベルアップした耳介再建学会に参加できることを楽しみにしております。



ライブサージャリーでご質問をされた三浦先生

6、主催者から

札幌医科大学 形成外科 四ッ柳高敏

本年は耳介再建研究会から、耳介再建学会へと名称を変えた初めての学会・・・昨年は本会の開催を断念したこともあり、何とか今年は開催したいと思っていました。Web 開催という手もあるにはあるのですが、本学会の目玉ではあるライブサージャリーは、個人情報の問題があり、外部に流出する危険性を考えると、あくまで院内のみでの中継である必要があります。9月に入って感染者が一気に減ってきて、会開催の可能性が出てきて、あとは第6波よ、当分来ないでくれ、と念じながら息をひそめていたような感じでした。10月初旬まで判断を待ちましたが、あと1か月はまず大丈夫だろうと思われ、開催を決意しました。

ただ、当院でもこの1年半で、二度ほど病棟内で患者が発生し、そのたびに他病棟を借りたりして何とか乗り切ってきたという現実がありますし、他の医療施設でも相当ナーバスになっているはずです。また、他の学会等でも特に宣伝はしませんでしたので、参加人数もかなり少ないと予想されました。それでも耳をやっている医師たちが年に1回でも集まって直接討論できる機会というのは本会以外にはなかなか得られないものですし、常連の先生たちからも、楽しみにしているという連絡をいただいたりしましたしね。

結果前回よりは人数自体は少なかったものの、耳に情熱を持っているコアなメンバーはほぼお越しになりましたし、また新たに参加いただいた先生もいて、例年以上の盛り上がりを見せたように思います。ライブは、すでにこれまで耳垂型小耳症の肋軟骨移植、耳甲介型小耳症の肋軟骨移植、生え際の低い患者の肋軟骨移植とやってきましたので、今回は耳介挙上としました。耳介挙上にも細かなノウハウがちりばめられていますし、オプション的に対側立ち耳の形成術も同時に行いましたので、多少なりと参考になったのではないかと思います。

症例検討会も、通常の学会とは違い、うまくいった症例ではなく、苦勞した症例、うまくいかなかった症例、どうするか悩んでいる症例などを出すのがこの会の特徴ですが、皆様が出された11演題、いずれもかなり悩ましく難しい症例で、討論もたっぷりでき、満足度が高かったように思います。ランチョンセミナーは、手術と同じだけ重要と思っている術後管理と合併症についてお話ししました。人參教室は、前回私の作るフレームがわかりにくかったという反省から、部品毎の型紙も新たに作ってみたのですが、その結果皆さんの耳の形は前回よりレベルアップしていたように思います。人參は人參でしかないのですが、肋軟骨とはちょっと手ごたえが違いますが、大事なものは耳の3-Dのイメージを獲得することなので、その役には立つものと思います。

まだまだ会の内容や構成などには改良の余地はあると思いますし、本当に耳をやっている人、やりたい人が全国から全員参加しているわけではないので、来年以降も色々考えながら地道にやっけていき、耳のネットワークを拡げていければと思っています。

大変な状況の中強行してご参加いただいた諸先生に感謝申し上げるとともに、事務局として入念に準備してくれた山下先生、諸先生への連絡や冊子の準備、各種手配など毎日遅くまで頑張ってくれた秘書の菊地さん、会の進行を的確にサポートしてくれた当科の先生たちに心から感謝申し上げます。